



お二人の夢が叶った「八ヶ岳ブルーベリーファーム」

Yamanashi Life style 02

# 二地域居住14年目にして、夢の「ブルーベリーファーム」を開園

14年間、二地域居住をしながら着々と夢を育ててきた内藤孝志さん・陽子さんご夫妻。庭のブルーベリーの木は1本、2本と増えて、ついにその数200本となり、念願の摘み取り園を開園しました。



今年の春植樹した苗木に、夢はさらに広がっていく

「うちの『八ヶ岳ブルーベリーファーム』では園主が妻。僕は使用人です」。降り注ぐ太陽のもと、色づき始めた実がたわわに実る園内で、笑いながら語る孝志さん。陽子さんは、八ヶ岳南麓ブルーベリー組合にも加入し、栽培の仕方など、実地勉強を続けているといいます。

「庭に植えた1本の木が始まりました。増やしていくうちに、広い敷地でたくさんのブルーベリーを育てたいという夢がふくらんできたんです」。



幸いなことに、自宅のすぐ隣りに250坪の畑を借りることができ、4年前から本格的な植樹が始まりました。現在は、通りをはさんだ畑にもさらに150坪の第2園を作り、木の数は200本までになっています。昨年の夏には、地域の方々の協力のもと、長い間の夢だった「ブルーベリーファーム」を開園しました。

「私たちは14年前にここを購入し、翌年家を建て、以来ずっと週末往来を続けています。田舎に溶け込むための助走期間が



ベランダから望む富士山

たっぷりあったので幸運でしたが、組合には80代の現役農家さんもいらっちゃって、50代、60代で始めても決して遅くはないと実感しています。夢って、どんな時も諦める必要はないんですよね。

笑顔で語る陽子さんですが、田舎暮らしは、もともと孝志さんが言い出したとのこと。

「私は山が好きで、大学でも山岳部に入っていましたから、八ヶ岳にもよく登っていました。物件を探していた頃は、まだ子ども達も幼かったんですが、車で家族みんなを引っ張り回して山梨めぐりをしました」。

孝志さんは、生涯ローンを組んで分譲マンションなどを手に入れるより、東京の住まいは借家がかまわないから、「田舎の家」を建てたい、という思いが強かったといいます。

「最初は、単純に“明るくて陽当たりがいい、山が見えるところに住みたい”という気持ちでした。しかし、実際にこちらに来てみると、土がある！ そうしたら自然に土と親しみたくなるんですよね」。

お二人は、ブルーベリー園のほかにも畑130坪を借り、野菜を育てています。

植樹、剪定、耕作……。四季の中で行う作業はメリハリがあり、都会の仕事とは違って、終わったあとの疲れにも爽快感を感じるそうです。

「農的生活は、自分で選択して主体的にリズムを作れますから。体を使うって気持ちいいことですね」と孝志さん。

「こちらでは、都会とは別の脳を使っているような気がして」。陽子さんも声を弾ませます。

内藤さんご夫妻の二地域居住は、忙しくも充実した、楽しい日々ようです。

陽当たりが良くて明るい、山が見晴らせるところに我が家が欲しかった



野菜づくりは主に孝志さんが担当



土壌づくりも大切な作業



暖房は薪ストーブ。孝志さんが愉しんで薪づくりをする



窓からは美しい水田が眺められる

ハヶ岳ブルーベリーファーム <http://www.yatu-blueberry.com/index.html>

### Profile

夢って、どんな時も諦める必要はないんですよね。



内藤孝志さん(54) 陽子さん(51)ご夫妻 [北杜市]

東京都出身。現在もそれぞれ東京で勤務しながら二地域居住を続ける。「農作業のあと、山を眺めながら、この縁側でほっと一息入れるのが大好きです」と語るお二人は、楽しい農的暮らしの中で着々と夢を育てている。



田舎暮らしに憧れるあなたへ

# 山梨で田舎暮らしのススメ

やまなし二地域居住推進協議会会長であり、  
自らも八ヶ岳南麓で二地域居住を楽しむ佐藤彰啓が  
二地域居住の魅力、山梨の魅力、を語ります！

美しい風景、豊穡の大地、そして心温かい人々…。  
田舎暮らしに不可欠な要素がすべてそろった  
山梨は、二地域居住にも永住先としても、  
とても魅力的な場所ですね。

経済が発展途上にある段階では誰も彼もが経済の中心である  
都会を目指すのですが、社会が成熟してくると、人々は田舎には田  
舎の良さがあることを再認識するようになります。週末の田舎暮ら  
しが定着しているヨーロッパはそのよい例ですね。

最近では日本でも、現役時代は都会で働き、リタイア後は、自然豊  
かな田舎で、ゆとりや潤いのある時間を過ごしたいと考える人々が増  
えています。これは社会が成熟してきた証と言えるでしょう。ただ  
し、生活習慣にしろ、人間関係にしろ、いろいろな面で違いがありま  
すから、いきなり完全移住というのはリスクを伴います。そこで、現  
役のうちから余裕を持って場所を探し、セカンドハウスを構えて、行  
ったり来たり二地域居住をしながら少しずつ慣れていくことをお  
勧めしているのですが、本当はもっと早く、子育ての段階にこそ、そ  
ういう生活が必要なのだと思います。子供を育てるには、田舎の環  
境は理想的ですからね。若いうちから2つも拠点を持つなんて無理  
だとお考えの方もいらっしゃるでしょうが、たとえば、通勤や通学に  
便利な都心のコンパクトなマンションで暮らしながら、土地の安い  
田舎に一軒家を構えて、週末や休暇を伸び伸びとそこで過ごすとい  
う合理的な考え方もあります。普段使わない物やシーズン外れの衣  
類などは田舎の家に置いておき、必要最小限の物だけ身の回りに置  
いて生活すれば、狭いスペースでも充分なのですから。

今、都会で働く若い世代に、農業への関心が高まっているのは  
とても喜ばしいことです。日頃は最先端の企業で働きながら、週末  
は田舎で農業をして過ごしたいと考える人々も出てきて、二地域居  
住というライフスタイルは人生設計の上での一つの選択肢となっ  
てきています。東京で生まれ育った人も多いため、二地域居住で

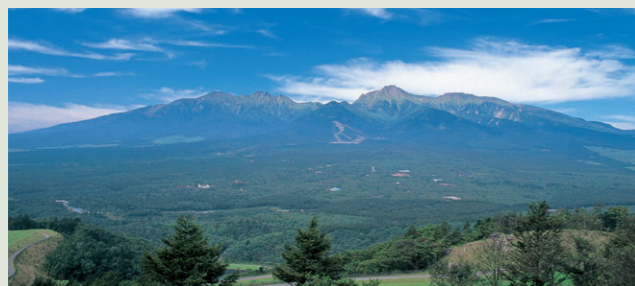


自然と触れ合いながら子供を育て、いずれリタイアしたら親世代は完  
全移住をし、成人した子供達は都会で仕事をしながら週末になると  
田舎へ戻るとい、新しい循環を作っていければいいと思います。

山梨は、首都圏に住む人にとって、二地域居住に最適などとも良  
い場所ですね。二地域居住の基本的なスタイルは、ウイークデーは  
都会で働き、週末を田舎で過ごす生活ですから、遠すぎでは続か  
なくなってしまう。前もって計画を立てなくても、「ちょっと行って  
くるか」と気軽に出かけられる距離感が大切なんです。その点山  
梨は、都心からのアクセスが良く移動時間は2時間程度。まさに理  
想的といえます。しかも、周囲を囲む美しい山々の景観や、四季折  
々の自然の風景、そして美味しい果物や野菜といった大地の恵み  
も楽しいですね。私自身、週末はこちらで生活していますが、ここ  
には、穏やかでゆとりとした時間が流れていて、その中に身を置  
いていると、ああ、自分も自然の生態系の一部だったんだと、素直  
に思えてくるんです。そして、秒刻みで動いている都会で生じた  
ストレスが解消され、心が癒され、エネルギーが満ちてくるのが  
分かります。ぜひ多くの方に、この素晴らしいさを実感していただ  
きたいですね。

やまなし二地域居住推進協議会会長  
**佐藤 彰啓**

1944年岐阜県生。農村の在り方や地域おこしの仕事に従事した後、1990年「ふる  
さと情報館」設立。田舎暮らしアドバイザーとして、自然豊かな地域での暮らしを求め  
る人々の支援とそれによる農村の活性化を目指しての多彩な活動を展開。自らも山  
梨に魅せられて八ヶ岳南麓にセカンドハウスを建築。東京との二地域居住を楽しんで  
いる。



雄大な八ヶ岳。美しい山々の景色は、山梨ならではの魅力の一つ

田舎暮らしのプロも魅了された山梨。その魅力をお教えします！

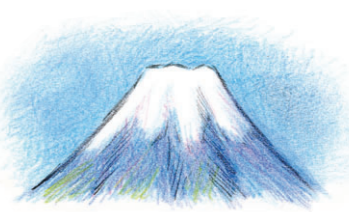
**point 1** **アクセスが抜群に良い！**  
都心から、電車でもバスでも車でも、  
1.5～2時間は魅力です。

二地域居住の一般的な形は、ウイークデーは都心で働き、週  
末を田舎で過ごすというライフスタイルですから、都心との距離は  
大きなポイント。移動時間は2時間以内が目安です。山梨は、この条件を満たしてい  
るだけでなく、交通の便もとても良い。大きな魅力だと思います。



**point 2** **自然環境に恵まれている！**  
四季を通じて自然と親しめる絶好の場所。  
大地の恵みも大きな魅力です。

富士山、八ヶ岳、南アルプスといった日本に冠たる山々の麓に、  
美しい農村風景が広がる山梨。ぶどう、桃をはじめ豊富な果物や  
野菜、お米など、美味しい大地の恵みも魅力です。春には生命の息吹を感じ、秋には  
豊かな実りを楽しむなど、四季を通じて自然と親しめるとても良い場所ですね。



**point 3** **土地価格が安い！**  
土地の価格が1坪3万円程度～  
これなら、サラリーマンにも手が届きます。

農村地区に借家はほとんどありません。その代わり、土地の価格がとても安い。1坪3  
万円程度で手に入る場所も珍しくありません。都内では考えられない値段です。余裕を持  
って田舎暮らしを楽しむためには、最低100坪の敷地が理想ですが、ここならそれも可  
能です。

素敵な家に  
住みたいなあ！

地元の人と  
楽しく  
過ごしたいなあ



山梨は盆地特有の内陸性気候ですが、  
八ヶ岳高原の夏は涼しくて、ほとんどクーラ  
ーを使う必要がありませんし、温度が上がる  
真夏でも昼夜の寒暖差が大きいため、夜は  
ぐっすり眠れます。  
一年を通して晴天日が多く、冬でも日中  
はポカポカと暖かい地域もあります。陽だ  
まりの心地良さは格別ですよ。積雪も少なく  
交通網がマヒするようなことも滅多にありま  
せん。

## 山梨の魅力はこんなにあります！

**point 5** **田舎ならではの贅沢**  
瑞々しい野菜や果物が並ぶ食卓。  
自分で作ればさらに美味！

食の安全に不信感が募るなか、ここ  
では、朝採れたばかりの新鮮な野菜や  
果物を、生産者から直接、しかも安価で  
手に入れることが容易にできます。さらに、  
自分で作ればその味は格別。都会では  
考えられない最高の贅沢ですよ。



**point 6** **地域の人との交流が、  
田舎暮らしをより楽しいものに**

気持ちの良い挨拶から始まるご近所づきあい。  
地域の行事にも積極的に参加し、友達の輪を広げよう。

暮らしを豊かにしてくれるのは、やはり人との交流です。顔見  
知りができ、交流が深まるにつれ、日々の暮らしがますます楽しくなり  
ますし、その土地の歴史や文化を知るにつれ、愛着も深まります。  
山梨の人々は、素朴で心根の優しい人ばかりですから、中に入っ  
てしまえばとても温かいお付き合いができますよ。その第一歩とな  
るのが気持ちの良い挨拶。「おはようございます」「こんにちは」と、  
道行く人にも声を掛けることから始めましょう。





山梨に暮らしていると、自然を肌で感じる

Yamanashi Life style 03

# フルーツ王国・山梨で果樹栽培の夢を実現

自分の手で果物をつくりたいと山梨の農園で働くことになった松崎さん。この秋には独立して自分の畑を持ち新居の準備も着々と進んでいます。



ぶどうの一房一房を愛でるように眺める

富士山、南アルプスなどの遥かな山並みを望む笛吹川フルーツ公園。ここから車で数分の場所にある松崎一裕さんの果樹園には、今、若い木々がしっかりと大地に根を張り始めています。

松崎さんが、山梨市に暮らすようになったのは4年あまり前のこと。東京や横浜に支店を展開するレストランで、パンやケーキづくりに携わっていた松崎さんは、以前から食材に興味を持っていましたが、中でも気になったのがレーズンでした。

「レーズンはトルコ産やチリ産がほとんどで、国産は本当に少ないんです。それで、でき



れば、自分でレーズンを作りたいなど。都会に少し疲れていたこともあって、地方で果樹栽培の仕事に就こうと決めました」。

フルーツといえば山梨。そう思った松崎さんは、山梨の農業大学校に入学する準備を進めながら、<sup>レ</sup>新農業人フェア<sup>、</sup>などにも参加していましたが、ある人を介して知り合った萩原フルーツ農園のオーナーの勧めで、実際に働きながら農業を学ぶことになりました。サクランボ、桃、ぶどう…、初夏から秋まで次々に最盛期を迎える農園で果樹全般について勉強した松崎さんは、この秋に独立。現在は、自分の畑で果樹の

苗木を育てています。「木を見ては、<sup>レ</sup>葉っぱが一枚枯れた、とか、<sup>レ</sup>虫がついた、とか、毎日ドキドキしています。でも、そこで、今度はこうしてみようか、などと考えるのが楽しいですね。これからは、果物の栽培だけでなく、加工や販売のことも考えなければと思っています」。

## どんぐりの実を育てて記念樹に

山梨に来て一番大きな出来事、それは生涯の伴侶となる智美さんとの出会いでした。「萩原フルーツ農園で売店を建てる時に建築を依頼した工務店で、設計、施工管理を担当したのが彼女だったんです」。お二人の交際はこれをきっかけにスタートし、結婚。4ヶ月前に、長男の大樹(たいじゅ)君が誕生しました。<sup>レ</sup>大きい木は、鳥たちの止まり木となり、小動物の住処ともなる。この子もいつか、このようにまわりの拠り所となる人間になってほしい。<sup>レ</sup>大樹君の名前には、こうした願いが込められているそうです。

松崎さんご夫妻は、現在、新居の建築準備を進めています。設計はもちろん、智美さんです。「父の別荘も兼ねた私達の家は、勝沼にある古い蔵の構造体をそのまま使い、太陽の暖かさや自然の対流を活かした家にしようと思っています」。

松崎さんが山梨に来て驚いたのは、<sup>レ</sup>人間関係が濃いこと、だったといいます。

「例えば、新しく建てる家の敷地に立っていると、みんなが覗いていくし、お年寄りの人たちは中まで入ってきて、30分も話し込んでいったりする。自分の畑を借りるときには、人間関係の難しさを感じたこともありますが、都会にはない、こうした人との深いつながりがすごく楽しい。田舎暮らしのコツは気負わずにやっていくことだと思います」。

松崎さんご夫妻は、これから近くの山に行ってどんぐりを拾い、それを育てて大樹君の記念樹にするのだとか。新しい家の庭に、どんぐりの実が落ちる日が、今から楽しみです。

田舎暮らしのコツは気負わずにやっていくことだと思います。



母精進めで育てたぶどうが、今年も見事に実った



新しい畑では、ぶどうの苗木が逞しく成長している



好奇心いっぱいの大樹くん



休みの日には、近くのフルーツ公園などを散歩する

◎撮影協力:山梨県笛吹川フルーツ公園 <http://www.fuefukigawalp.or.jp/>  
萩原フルーツ農園 <http://hagifruits.com>

### Profile

都会にはない、人との深いつながりがすごく楽しい。



松崎一裕さん(37歳)/智美さん(35歳)/大樹君(4ヶ月) [山梨市]

横浜市出身。パンづくりの仕事に携わるなか、食材自体を自分の手でつくりたいと考え、山梨市の萩原フルーツ農園で働きながら果樹栽培を勉強。この秋に独立し、加工・販売までを視野に入れた農業経営をめざしている。4ヶ月前、長男が誕生。現在、妻・智美さんの設計で新居の計画が進行中。